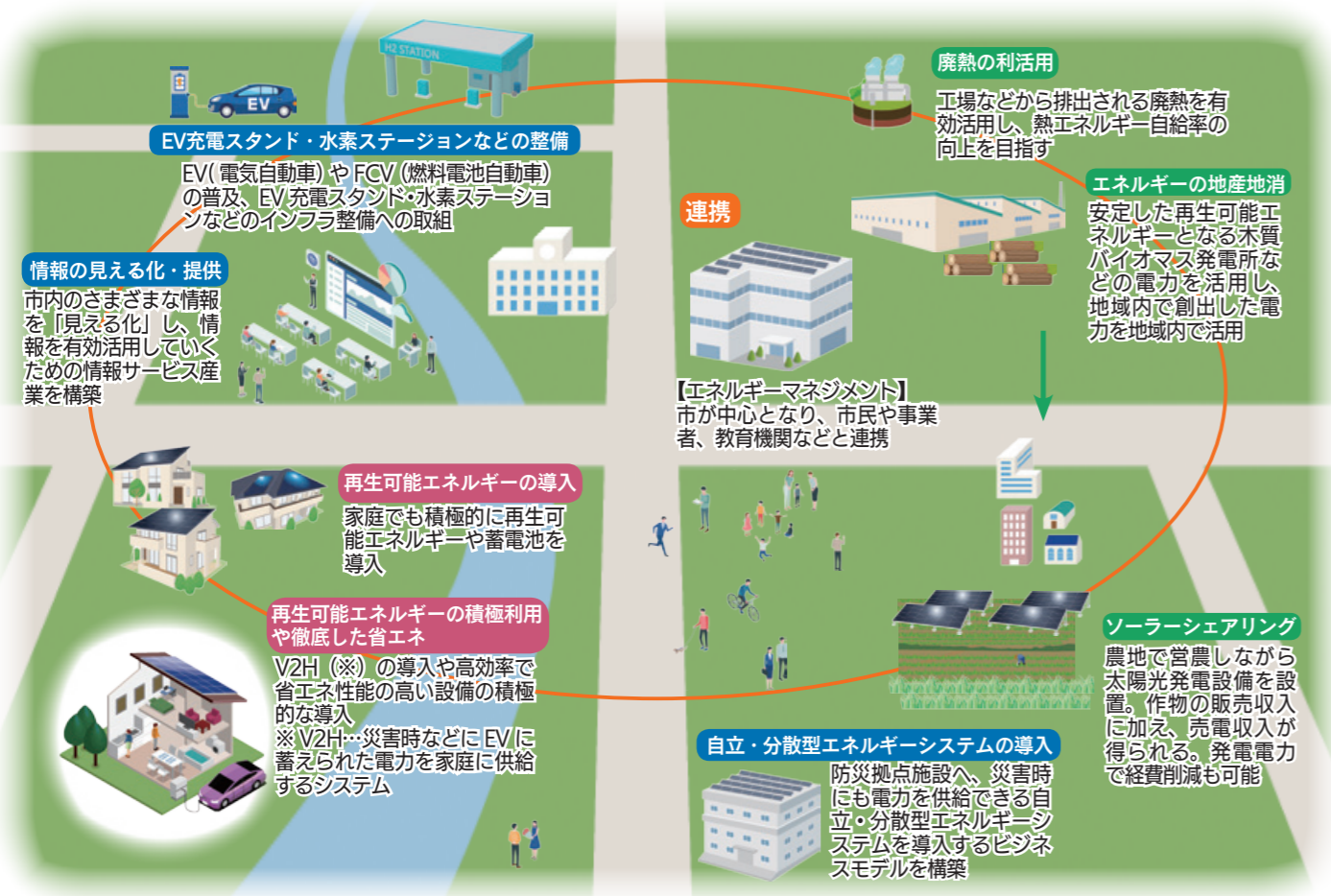


## 将来目標像を実現するための取り組み例



## 私たちにできること

無理をしない新しいスマートなライフスタイルへの挑戦

家庭でエネルギー消費量を把握



省エネ行動を実施するための第一歩として、検針票や電力会社などのウェブサイトやアプリなどで家庭でのエネルギー消費量を把握する。

効果的な省エネ行動



照明のLED化や使わない照明の消灯、冷暖房の温度設定、その他家庭での節電対策で効果的な省エネを実施する。

再生可能エネルギーや蓄電池などを積極的に導入



家庭や事業所などでも自らエネルギーを創り、使うため、太陽光発電や太陽熱の利用促進、バイオマスを活用したボイラーやストーブ、蓄電池を導入する。

ガソリン車などからEVへの買い替えやV2Hシステムの導入



エコな車への買い替えや、太陽光発電の電気を最大限活用するため、EVなどを蓄電池として活用できるシステムを導入する。

# 舞鶴の未来予想図

〜舞鶴市地域エネルギービジョンから〜

**環境側面・社会側面・経済側面**で質の高い市民生活を維持し、地域資源をうまく活用することで、将来世代に、より良好な環境を継承し、新たな価値や産業が創出されていく社会が形成される地域を目指します。

### ◆環境側面(脱炭素化)

脱炭素化に向けて、市内の全関係者(市民・事業者・教育機関等・市)が実行すべき基本的な戦略を「戦略Ⅰ…新たな環境スタイルへの適応」と設定。  
市内の全関係者が新しい環境価値のもとで、新たな生活や企業スタイルに適応することが必要です。

### ◆社会側面(防災力強化)

安全・安心で、便利で暮らしやすい社会を実現させるための戦略として「戦略Ⅱ…災害時におけるエネルギー供給体制」「戦略Ⅲ…再生可能エネルギー利活用に向けたインフラ整備」の構築を設定。  
本市は、台風や豪雨による水害・土砂災害が多くなっているほか、太平洋側の大災害時のリダンダンシー(※)を

確保する役割を担っており、災害時にエネルギー供給が可能となる備えが求められています。また、災害発生時だけでなく、平時でも地域で創ったエネルギーを選択して利用するための情報や設備整備など、再生可能エネルギーを上手に活用するためのインフラ整備が重要です。  
※リダンダンシー…自然災害などでの障害発生時に備え、あらかじめライフラインなどの多重化や予備の手段が用意されている状態

### ◆経済側面(地域活性化)

市で創られる再生可能エネルギーは、バイオマス発電や太陽光発電などがあります。また、港湾部にはエネルギーを多く利用している工場が立地し、工場から排出される廃熱も多く存在しています。これらの地域のエネルギーを上手に活用し、経済側面を目指す社会を実現させるための戦略を「戦略Ⅳ…地域に根差した再生可能エネルギー産業の促進」と設定。  
市が中心となり、教育機関や事業者などと連携して取り組んでいきます。

## 将来目標像

持続可能な社会を目指して、地域の人と資源をつなげ、新たな環境価値を創造するまち「舞鶴」

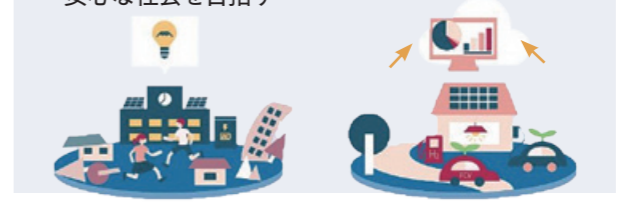
### 環境側面 脱炭素化

省エネや再生可能エネルギーを効果的に取り入れることで、地域で消費するエネルギーから、二酸化炭素を排出しない、クリーンで環境にやさしい社会を目指す



### 社会側面 防災力強化

地域内の避難所等には、再生可能エネルギーと蓄エネルギーが整備され、災害によって商用電力が停止した場合にもエネルギーが供給できる市民にとって安全・安心な社会を目指す



### 経済側面 地域活性化

地域の資源と資金が地域内で循環し、既存の地場産業だけでなく、新しい個性豊かな産業が地域内で展開され、地域の経済が自立した社会を目指す

